

2019 年度自己点検・評価報告書

社会連携・社会貢献評価分科会

<点検項目>

Ⅷ. 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

(1) 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

本学では、2008年12月に社会連携・社会貢献に関する方針として「創価大学社会連携ポリシー」(根拠資料1)を策定し、地域社会、国と地方公共団体、産業界、そして国際社会の発展に寄与する「社会連携」を、建学の精神に照らして本学の重要な使命と位置づけ、明記している。この方針に基づき、社会連携を推進するための社会連携・知的財産戦略本部とその事務組織であるリエゾンオフィスを設置し、すでに2007年に設置していた創価大学産学連携推進センターに加え、2015年に創価大学地域連携センターを開設し、それぞれ規定を定めている。(根拠資料2、3：各センター規定)さらに2019年4月からは、社会連携ポリシーに掲げる教育、学術研究、社会貢献をより良く実行して大学の社会的責任を果たし、一層の地域・社会貢献を行なうため、上記の各センターを発展的に統合した「地域・産学連携センター」を設置して規定を定め、体制を強化した。(根拠資料4)

(2) 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

社会連携ポリシーにもとづき、まず大学全体として、民間企業等の産業界、行政組織、NPO等の民間団体、町会・自治会等の地域団体、海外を含む他の大学、小中高等学校、さらに大学コンソーシアム八王子、TAMA-TLO、TAMA協会等の団体等と積極的に連携し、教育、研究、社会貢献の諸活動に積極的に取り組んでいる。

また学部等の学内の各部局や学生組織等においても、諸団体・諸機関と独自に連携を図りながら、同様の活動を意欲的に推進している。ただ、学内各学部・部局等のそれらの活動は、これまでの諸団体・諸機関との長い連携の実績を持っているが、必ずしも社会連携ポリシーを意識して行なってきたものばかりではないことから、地域・産学連携推進センターが設置された本年度は、センターが中心となって、これらの諸活動を社会連携ポリシーに基づく、より組織的で一貫性をもった活動として推進していく体制を整えることができた。

具体的には、①現在学内の各学部・部局・学生組織等が行なっている社会連携・社会貢献の活動の実態をまず全体的に把握した。②これらの各部局の諸活動が内外に広く認知されることによって、今後の連携が一層しやすくなるよう、センターとしてこれらの活動を学内外に積極的に広報・発信した。(根拠資料5：創価大学地域・産学連携センターHP)

①については、統一的なフォーマットの事業報告書(根拠資料6)で活動の実態を把握している。大学間連携、小中高連携、広域連携、産学連携、地域連携、地域交流、公開講座、その他の8つの活動分野に分けて、必要に応じてSDGsとの関連も記して、現在34の活動についてまとめている。

(根拠資料7：2019年度事業報告書一括資料)②については、本学の地域・産学連携センターのHPを大きく改修し、①で把握した活動を一括して紹介・発信している。

なお、教育研究成果を適切に社会に還元しているかについては、①の報告書に記載のとおり、公開講座、産学連携による技術移転や特許取得およびベンチャービジネスの立ち上げ、留学生の小学校への派遣・交流など、多くの活動において適切に還元できている。今後一層の還元を図りたい。

次に個々の活動の主なものについて、統一フォーマットにしたがって、以下に示す。

- ・ 学術・文化・産業ネットワーク多摩
- ・ 学生企画事業補助金（大学コンソーシアム八王子）
- ・ 八王子学生 CM コンテスト（大学コンソーシアム八王子）
- ・ 学生発表会（大学コンソーシアム八王子）
- ・ 八王子学（共通科目）
- ・ ミュージアム・エデュケーション
- ・ 産学連携講座「社会貢献と経済学」
- ・ 東北復興インターンシップ・プログラム
- ・ 東北復興スタディーツアー
- ・ 学校インターンシップ
- ・ 夏季大学講座
- ・ 八王子学園都市大学「いちよう塾」
- ・ 子どもいちよう塾
- ・ 夏休み親子教室
- ・ 看護学部地域公開講座
- ・ アドバンストプレイスメント
- ・ SAGE JAPAN
- ・ ユネスコスクール
- ・ 八王子市夏季教員研修
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」のための授業デザイン研修プログラム
- ・ 東京都教育委員会 英語教育中核教員養成講座
- ・ KAGAC eラーニング教員免許更新講習
- ・ 市内小学校への留学生派遣事業
- ・ さつき祭（近隣友好の集い）
- ・ 校内開放（桜のライトアップ等）
- ・ 創価大学学長杯 サマージュニアカップ
- ・ 創価大学学長杯 八王子少年野球大会
- ・ 地域防犯パトロール
- ・ 施設貸し出し（教室、グラウンド）
- ・ 地域防災拠点
- ・ 自衛消防訓練審査会
- ・ 図書館の市民利用
- ・ 図書館の職場体験
- ・ 学友会クラブを中心とした地域交流
- ・ まがりプロジェクト

・ JICA 草の根技術協力事業

(3) 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

社会連携・貢献の適切性についての点検・評価は、全学については、必要に応じて学士課程教育機構運営委員会や学長室会議、大学研究教育評議会、全学自己点検委員会で行なっている。また各学部・部局の取組の適切性については、各学部教授会や自己点検評価分科会で必要に応じてそれぞれ行なっており、それによって改善・向上に向けた取り組みを随時行なっている。しかし、それらは社会連携・社会貢献活動に特化した点検・評価ではなく、現状では多くの議題の中の一つであり、定期的な点検・評価とまではいえない。また各部局の活動についても、その点検・評価は各部局に概ねまかされておられ、大学としての基本的なガバナンスが必要である。

2. 点検・評価

①効果が上がっている事項

全学および各学部・部局等で、教育、研究、地域・社会貢献の幅広い分野にわたり、大学間連携、小中高連携、広域連携、産学連携、地域連携、地域交流、公開講座等の多様な社会連携・社会貢献活動を展開している。その中には、本学の開学間もない時期から40年以上にわたって、大学の研究・教育の成果を一般の市民に開放・体験してもらい好評を博している夏季大学講座などの活動も含まれている。

②改善すべき事項

上に記したように、社会連携・社会貢献活動の適切性の定期的な点検・評価は十分とはいえない。加えて各部局の活動については、大学としての基本的なガバナンスがさらに発揮される必要がある。また、本活動の推進および自己点検に学生の意見を取り入れる必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

全学および各学部・部局が行なっている社会連携・社会貢献の諸活動を、社会連携ポリシーに基づく組織的で一貫性をもった活動としてさらに推進していくための体制強化がさらに必要である。具体的には地域・産学連携センターの専任の教職員を含むをスタッフの増強を図るなど、これによって社会連携にとどまらず、社会貢献活動を拡充したい。そのために、センター独自の地域連携・貢献活動を計画・実施していきたい。

②改善すべき事項

今後、地域・産学連携センターの役割と権限を一層明確化し、さらにセンターと各学部・部局との一層の連携を図ることによって、社会連携・社会貢献活動の適切性を定期的に点検・評価することによって、大学としてPDCAサイクルの確立を行う必要がある。また本活動および自己点検に学生の意見を取り入れる手立てとして、2020年年度から評価分科会に2名の学生代表を加える方向であり、今後さらに学生を対象にしたアンケートの実施など、必要な作業を行ないたい。

4. 根拠資料

- 1) 創価大学社会連携ポリシー
- 2) 創価大学産学連携推進センター規定
- 3) 創価大学地域連携センター規定
- 4) 創価大学地域・産学連携センター規定
- 5) 創価大学地域・産学連携センターHP
- 6) 2019年度事業報告書フォーマット
- 7) 2019年度事業報告書一式